

令和7年度 第2回安曇野市健康づくり推進協議会

1	審議会名	安曇野市健康づくり推進協議会
2	日 時	令和8年1月28日(水) 午後1時30分から午後3時まで
3	会 場	安曇野市 豊科公民館 大会議室
4	出席者	伊藤会長、武田委員、山本朋章委員、山本洋平委員、小林委員、 小柳委員、米澤委員、青柳委員、鎌崎委員、飯澤委員、中田委員、 細萱委員、小杉委員
5	市側出席者	渡邊部長、太田課長、二木課長、矢花係長、小松係長、 浅川課長補佐、佐野課長補佐、草間係長、小林係長、村田係長、 藤原係長
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	令和8年3月6日
協 議 内 容		
<p>【協議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 安曇野市健康づくり計画（第3次）の進捗について 2 令和7年度安曇野市保健事業（重点）報告について 3 令和8年度安曇野市保健事業計画（案）について 4 その他 <p>【会議概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 安曇野市健康づくり計画（第3次）の進捗について 資料（グラフ）に基づき令和6年度の安曇野市健康づくり計画（第3次）の進捗状況について説明。 <ul style="list-style-type: none"> ・40～60歳代の肥満者は、男性は減少、女性は増加傾向。20～30歳代のやせの女性は減少傾向、高齢者の低栄養傾向は横ばい、肥満傾向にある子どもの割合は減少している。適正体重が維持できるように取り組んでいきたい。 ・日常生活における身体活動の実施者の割合、運動習慣者の割合は共に増加傾向にある。 ・睡眠で休養がとれている人の割合は減少傾向にある。保健指導や健康教育等で周知していきたい。 ・生活習慣症のリスクを高める量の飲酒をしている人の割合は横ばい。妊娠中の飲酒者の割合にばらつきはあるが人数は一桁で推移している。アルコールと健康への影響について情報提供を行って行きたい。 ・喫煙率、妊婦の喫煙率はいずれも全国よりも低くなっている。引き続き喫煙による健康への影響について情報提供を行って行きたい。 ・むし歯のない3歳児、12歳児の割合はいずれも全国よりも良好。成人歯科健診の受診率は増加している。歯周炎を有する人の割合も増加しているが、歯科健診の受診により、歯周炎が早期に発見されたことも影響していると思われる。 ・75歳未満の年齢調整死亡率は増加傾向にある。がん検診受診率は胃がん・大腸がんは減少、肺がんは横ばい、子宮頸がん・乳がんは増加。精密検査受診率は大腸がん・子宮頸がんについては目標値(90.0%)を下回っている。引き続き受診勧奨を行って行きたい。 ・メタボリックシンドローム該当者の割合は減少傾向だが、予備群は増加傾向である。特定保健指導実施率は、令和5年度は低下したが、令和6年度は進捗管理を徹底し、目標 		

(60.0%)を達成した。

- ・新規人工透析導入者は年間 20 人弱で内半数を糖尿病有症者が占めている。治療継続者は横ばい。血糖コントロール不良者の割合は減少、糖尿病有症者の増加は抑えられている。
- ・低栄養傾向の高齢者の割合は減少、1週間に1回以上ウォーキングなどの運動をしている人の割合は横ばい。週1回以上外出している人の割合は増加しているが、骨折する人の割合(75歳以上)も増加している。
- ・特に女性の骨折が多く、若い頃からのやせ傾向が影響していると思われる。
- ・朝食を欠食する3歳児はいないが、朝食を子どもだけで食べている割合が10%以上となっている。乳幼児健診等でも食の大切さを保護者に伝えていきたい。
- ・自殺死亡率は目標値をオーバーしている。育てにくさを感じた時に対処できる親の割合や、生活に困った時に相談できる体制が整っていると思う市民の割合はいずれも目標を下回っている。自殺に追い込まれる危機に陥った際には援助を求めることが適切であるという認識の普及・啓発に努めていきたい。

<主な意見>

(委員) 飲酒について、去年くらいから飲まない方が良いとなっていると思うが、飲酒をしている人の割合の目標値はこのくらいでよいのか？

(事務局) 国の目標値が10%となっており、それよりは低い数値を設定している。

(委員) 自殺死亡率も目標はゼロにしてもらいたい。目標がゼロでないと少しなら良いというように見えてしまう。検討をお願いしたい。

(委員) 特定健診受診率を上げるためにどのような努力をしているか。

(事務局) 受診の意向が不明な方については、前年度や一昨年度の状況を踏まえ個別健診や集団健診の案内を行っている。節目年齢で、無料で受診できる方には、直ぐに受診していただける受診券を送付している。集団健診などが終わった時点で未受診の方には改めて通知を送って、意向の確認と受診できる体制の案内を行っている。保健指導の中でも受診勧奨を行っている。医師会の先生方なども含めて受診率向上に努めているが、足りないところはあると思うので、皆様のご協力をいただきたい。

(委員) 後期高齢者健診の受診者はどのくらい増えているか。

(事務局) 安曇野市の後期高齢者医療に加入されている方の受診率は現在22%ほどになっている。

2 令和7年度安曇野市保健事業（重点）報告について

- ・母子保健について3点を重点事業と位置づけて実施している。

(1) 妊婦等訪問指導や産婦・新生児等訪問指導等の伴走型相談支援の充実

関係部署や関係機関と連絡調整を行い継続支援が出来るように実施している。支援が必要な妊婦には妊娠届出時に訪問指導等について積極的に紹介している。

(2) 産後ケア事業の実施と実施機関との連携

令和6年度より利用料の減免を実施し、より利用しやすくなっている。個別に支援が必要な対象者には継続支援を実施している。利用数は増加傾向にある。

(3)多職種連携による乳幼児健診・相談等の実施

保健師、管理栄養士、歯科衛生士などの連携により多角的な視点を持ち健診や相談を実施している。健診相談等に従事する専門職を対象に研修会の実施を予定している。子ども家庭センターとの連携強化を目的に、7月と12月に人権教育プログラムに関する研修会を実施した。

・成人検診について、2点を重点事業と位置づけて実施している。

(1)特定保健指導・重症化予防のための保健指導

令和6年度の特定保健指導実施率は62.2%となり、進捗管理を徹底する事で目標値の60%を達成することが出来た。保健指導実施者の相互学習を今年度5回実施し力量形成を図っている。引き続き実施率向上を目指したい。

(2)成人歯科健診

令和7年度の成人歯科健診実施率は6.6%となり目標値6.5%を達成できた。50歳・60歳の受診率が高くなっている。今後も受診率向上に向けて、個別通知や広報紙による受診勧奨の他SNS等を活用した勧奨も行って行きたい。

・精神保健について2点を重点事業と位置付けて実施している。

(1)こころの健康を考えるつどい

2月14日に信州大学の茅野理恵准教授を講師に、「子ども・若者のSOSの受け止め方」と題して講演会を予定している。

(2)ゲートキーパー研修会

今年度市内小中学校の先生方、市の新任管理監督職、市民の方を対象にグループワーク形式で3回研修会を実施し87人の参加があった。研修時のアンケートの結果を見ると、ゲートキーパーの役割を理解できた参加者が多くいた一方で、相手の変化に気づく事や支援機関につなぐことが難しいと感じる参加者もいた。今後も研修会を開催し、自殺対策に取り組んで行きたい。

・感染症予防等について、2点を重点時事業と位置づけ実施している。

(1)HPVワクチンのキャッチアップ経過措置の1年延長による接種勧奨

経過措置が1年延長され令和7年度も実施している。未接種者や未完了者に経過措置や接種方法に関する情報提供を個別通知で行っている。3月末まで接種期間があるので、引き続きホームページなどで情報提供に努めて行きたい。

(2)带状疱疹ワクチンの定期接種

令和7年度より予防接種法のB類疾病に位置付けられたことにより带状疱疹ワクチンを実施した。生ワクチンと不活性化ワクチンがあり、接種回数が異なるので、対象となる方にワクチンの特性を記載した個別通知を発送して、希望するワクチンを決定した上で電話やながの電子申請により接種券の申し込みをしていただいた。

<主な意見>

(会長) HPVワクチンに関して、日本では1年間に3000人近い女性が子宮頸がんで亡くなり、その数倍の方が、子供を産めない状態になっている。諸外国ではワクチンの普及により子宮頸がんがほとんどない国も多くなっている。日本では副反応のことで一時騒ぎ

になり接種が遅れてしまった。命に関わる大事な予防接種なので、皆様も周りの方に啓発して欲しい。副反応で亡くなった方はいないし、起こった副反応もワクチン成分との因果関係は認められず、非常に安全なワクチンである。

3 令和8年度安曇野市保健事業計画案について

- ・基本方針として「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」を目指し生活習慣病の発症予防・重症化予防、胎生期から高齢期までどのライフステージにおいても切れ間なく健康づくりを推進する。
- ・母子保健分野では妊娠期から子育て期にかけて切れ目なく支援できるよう、医療や福祉分野等と連携し、個別の状況に応じたきめ細やかな相談や支援を強化する。
- ・成人保健分野では、各種健診の受診率向上を目指し、知識の普及・啓発、受診後の精密検査受診等の管理、個々の健診データに基づいた保健指導を実施する。
- ・歯科保健分野では、歯周病対策として成人歯科健診の実施を、食育分野では、こども園、小中学校とも連携した取り組みを進める。
- ・自殺対策では、こころの健康の知識の普及・啓発とあわせ、特に若年層への取り組みを関係機関と連携して推進する。
- ・感染症予防対策では、法令に基づく定期接種や任意の予防接種の適正な実施とともに、接種率の向上に努める。
- ・この基本方針に沿って、各分野に定めた目標に向かい、令和8年度の保健事業を実施する。
- ・母子保健の重点事業としては、妊婦等訪問指導や産婦・新生児等訪問指導等の伴走型相談支援の充実、産後ケア事業の実施と実施機関との連携、多職種連携による乳幼児健診・相談等の実施に取り組む。
- ・成人保健の重点事業として、引き続き特定保健指導、重症化予防のための保健指導に取り組む。
- ・精神保健については、メンタルヘルスや精神障がい及び精神疾患についての理解を促進し自分自身や身近な人の変化に気づき対処できるよう知識の普及啓発に努める。20歳未満男性の自殺の割合が国・県に比べて高いため、若年層の自殺対策を推進する。重点事業として、こころの健康を考えるつどい、ゲートキーパー研修会を実施し、精神保健の理解及び啓発に努める。
- ・食育推進に関しては庁内関係部局と連携して施策を推進する。重点事業として、知識の普及・啓発、保健指導、認定こども園・幼稚園・小中学校における食育に取り組む。
- ・感染症予防等として、定期予防接種対象者への接種勧奨や未接種者への再勧奨を行い接種率の向上に努め、感染症の罹患及び重症化予防を図る。
- ・RSウイルス感染症が新たに予防接種法上のA類疾病に位置付けられ、定期接種となる。対象者である妊娠28週から37週に至るまでの妊婦へ周知を徹底し、確実に予防接種を実施する。
- ・65歳以上の高齢者を対象とした予防接種に、令和8年度新たに高用量インフルエンザHA

ワクチンが承認され、75歳以上の方は高用量インフルエンザワクチンを選択できるようになる。新規事業として新しいワクチンが75歳以上を対象に追加され、運用も複雑となるため、より分かりやすい周知に努める。

- ・重点事業のRSウイルスワクチンは母子免疫ワクチンであり、接種対象を妊婦としている。接種期間も妊娠28週から37週に至るまでと限定されているので、適正な接種を実施するため、わかりやすく周知や説明をし、RSウイルスワクチン接種に努める。

<主な意見>

(委員) 成人保健について特定健診受診率が40～50%程度で低い。受診率を上げるための方策として、市民の皆さんに健康の度合いを検査ができる健診であるということを強く訴える為に、もっと健診項目を増すことを考えていただきたい。現在、血液の検査でも相当疾患を見いだせるようになって来ているので、健診項目を増やして、充実した健診が受けられるような体制を整えていただきたい。

健康づくり推進委員会がなくなり、出前講座等を地域で受けるための受け皿となる委員もいなくなっているため、市の方から働きかけなければならないと思う。

出前講座等の内容を充実させて、出前講座等の中でそれぞれの市民の健康の向上に繋がるような働きかけをしていくのも方法ではないかと思う。各地域においては、社協の活動や、老人クラブやシニアクラブといった組織にも働きかけながら、地域の会の中に出前講座を入れていただいて、健康意識の向上に繋がるようにしていくのも一つの方法ではないかと思う。

また、これらの効果によって、医療費とか社会保障費といった市の財政の負担を軽減することができる。そういったことに繋がる健康な安曇野市であるような方策を練って、これらを行う事業計画・単年度計画に盛り込んで推進していただきたい。

(会長) 出前講座について現在どうなっているか説明をお願いします。

(事務局) 出前講座は、市の地域づくり課で主管している。しかし、地域づくり課を介して市民の皆さんとやり取りする形では、中々思うような講座の内容を詰めるのが難しい。今年度から出前講座の紹介にあわせて、健康支援課で生活習慣病予防等の講座をいくつかやっているため、ご相談くださいということ載せている。

その上で、高血圧・糖尿病・食事・歯のことなど、市民の皆さんとご相談しながらご希望に沿った形で健康講座を行っている。

健康づくり推進員も、市全体としてはなくなっているが、一部の区では残っている。その推進員から依頼を受ける事もあり、区との連携をとりながら実施している。

また地区社協から依頼を受け、一緒に取り組む事もある。

若い方は講座を開いてもなかなか集まらなかったりするが、高齢者の方のサロンなどと連携しながら講座を行っている。高齢者介護課とも連携して健康講座を開き、昨年よりもフレイル予防などの講座数は伸びている。

(会長) 非常に努力されていることが分かった。

(委員) 多くの事業をやっていただいており感謝している。

喫煙率について男性女性共にまだまだ高いと思う。

安曇野市としてだけでなく、日本の問題として、喫煙率を減らすことについて、もう一回切り口を見直しながら、取り組んでいただきたい。

また、小中学生を含めて薬物の乱用が増加している。新聞等を見ても、小中学生でも容易に薬物が手に入るという中で、薬物の乱用の怖さとか、乱用しないことの重要性を指導してほしい。

一人暮らしの高齢者について、統計上 2020 年は 600 万人だが、2040 年になると約 900 万人になると出ている。そうすると、一人暮らしの高齢者へのケアサポートが必要になる。

現在、地域ケアを包括するシステム・制度があるが、もう少し切り込んで、ケアサポートの仕組みを、今後を見据えて安曇野市の健康づくりという中で課題として取り組んでいただきたい。

(会 長) 喫煙に関しては、私も全然減っていないという印象がある。特に、電子タバコが蔓延している。煙が出るタバコと同じように害はあり、受動喫煙もあるということがわかっているので、重点的に考えていただきたい。

小中学生の薬物乱用の問題も、今これから非常に大事になってくると思う。今の時代はスマホを持っていれば、良い情報も悪い情報も入ってくる。非常に危険な情報を小中学生がスマホで得て、実際に危険薬物を手に入れることができるという状況になっているということを、皆さん認識していただければと思う。

4 その他

- ・穂高健康支援センター大規模改修工事を実施している。進捗は順調で予定通り 3 月 13 日しゅん工見込である。
- ・堀金総合福祉センターの大規模改修等により、堀金保健センターでの保健事業は令和 7 年 8 月から休止となっている。この状況は来年度も続く見込みで、休止期間中の保健事業は他の保健センターで実施し健診こよみ等で周知する。

<意見要望なし>

<全体を通しての意見>

(会 長) 若年女性のやせについて、BMI が 18.5 を切ってくると、女性の場合は月経が止まってしまう、女性ホルモンが出なくなってしまう。といったことがかなりの確率で起こってくる。その状態でずっといくと、女性ホルモンが十分でないまま一生過ごしていくことになる。女性ホルモンのエストロゲンというのは、将来的に考えると、骨密度を保つ働きが非常に強いので、将来フレイルにも骨折のリスクにもなる。女性で閉経後の方は非常に骨折が多くなる。また、BMI 18.5 を割っているような、やせている妊婦さんから生まれた子供が、将来生活習慣病になりやすいというデータもでてきている。

もう一つは、やせていることによって、かえって将来、糖尿病とか高血圧の予備群になるということも、日本肥満学会から指摘されている。非常に重大な問題で、女性は

とにかくやせているのがいいとか、体重が多いのはよくないイメージを持たれているかもしれないが、やせが女性の将来の健康にとって深刻な問題になっているので、皆様に情報として共有していただければと思う。

(委員) 市役所に行くと、市の職員が自転車置き場でタバコを吸っている。健康を気遣う課の人たちもたくさんいるのに、市役所にもこんなにタバコ吸う人がいるのかと思ってしまう。現在、職員の喫煙はどのようになっているのか。

(事務局) 勤務時間中にタバコを吸うことはあってはならないことなので、定められたお昼休みの休憩時間だけ喫煙するということを徹底している。

(委員) 禁煙の努力をしましょうといった教育などもあるのか。

(事務局) 職員課を窓口となり、禁煙をしたいという者を対象に、ニコチンパッチを無料で渡すということを行っている。

(委員) なるべく、職員の喫煙が少なくするようにお願いしたい。

(事務局) 職員課にも話をしていきたい。

(会長) 昨年10月からチャンピックスという禁煙のための飲み薬の供給が再開されている。タバコのニコチンは非常に依存性の強く、なかなか止められない。タバコをやめる意思がある方は、今は色々方法もあるので、禁煙外来を受診していただければと思う。

それよりも若い人にタバコに近づけさせないということが、一番大事だと思っている。若い人にタバコは酷いものだということを、きちんと啓蒙してほしい。

(委員) 若い女性のやせに関連して、中高生が見るSNSで、BMI18以下をシンデレラ体形とって、それを目指すというのを、影響のあるインフルエンサーが発信していて驚いた。それに対して、良くないという発言も出ているので全員というわけではないが、短絡的にまねをするようになってしまうのが怖い。安曇野市でもネットなどで情報提供等をすると思うが、公的などから正しい情報を出して欲しい。市のホームページや広報誌とかを活用して、地道な広報をお願いしたいと思う。

(会長) ぜひホームページ等でそういった項目を挙げていただければと思う。欧米では、BMI18.5以下の人はメディアには出てはいけないという法律がある国もある。みんながやせに走ってしまうというのは、人類滅亡に向かうことだと思うので、皆様も認識いただきたい。特に体重がある方に対してネガティブに見るとか、やせてればやせているほど良いという認識を改めていただければと思っている。

(以上)